

景気見通し調査(平成23年12月期)調査結果

福井商工会議所
中小企業総合支援センター

【調査の概要】

調査時期 平成23年11月30日(水)～12月2日(金)
調査方法 F A Xによる送付、回収
調査対象 福井商工会議所 会員小規模事業所より 360件を抽出
(製造業・建設業・・・従業員20人以下の事業所
卸・小売業、商業・サービス・その他・・・従業員5人以下の事業所)
回答数 185件 (回収率51.4%)

	製 造	建 設	卸・小売業	サービス・ その他	合 計
5人以内	15(20.3)	16(21.6)	27(36.5)	16(21.6)	74
6～10人	15(32.7)	14(30.4)	10(21.7)	7(15.2)	46
11人以上	24(36.9)	17(26.2)	15(23.1)	9(13.8)	65
合 計	54(29.2)	47(25.4)	52(28.1)	32(17.3)	185

文中にでてくる「D I 値」とは
ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」
「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値。

【調査結果の概要】

足踏みから改善に転じるも 先行き不安から本格的回復には至らず
～建設業・製造業で改善幅大きく～

- 1) 業界全体の景況 DI 値は▲54.6 と前回調査（H23 年 9 月）と比べ、16.2 ポイント改善。業種別にみると、「製造業」、「建設業」で改善幅大きい。「今後（3 ヶ月後）」の先行 DI 値は▲68.7 となり、「現在」との差は▲14.1 と前回調査の▲0.3 よりも大きく拡大しており、先行きへの警戒感は強まっている。
- 2) 自社の景況感は、現在 DI 値は▲43.6 となり、前回調査（H23 年 9 月）に比べ 9.7 ポイント改善。「今後（3 ヶ月後）」の先行 DI 値は▲58.9 となり、「現在」との差は▲15.3 と前回調査の▲2.3 よりも大きく拡大しており、業界全体と同様に先行きへの警戒感は強まっている。
- 3) 売上（受注高）については、「現在」の DI 値は▲24.3 ポイントと前回調査より 10.8 ポイント改善。「今後（3 ヶ月後）」の先行 DI 値は▲40.3 となり、「現在」との差は▲16.0 となった。前回の調査では「現在」と「今後（3 ヶ月後）」の DI 値の格差は▲7.2 と前々回（6 月期）からは縮小していたが、再度の拡大となった。
- 4) 仕入価格は「現在」で▲20.7 ポイント、「今後（3 ヶ月後）」の先行 DI で▲15.0 ポイントとなり、依然低水準で推移しているものの、H23 年 3 月期より 3 期連続改善傾向。
- 5) 販売価格（単価）は「現在」の DI 値が▲16.1 で前回と比べ 3.4 ポイントアップ、「今後（3 ヶ月後）」の先行 DI では▲18.9 で前回▲22.7 から 3.8 ポイントの改善も、低水準で横ばい。
- 6) 当面の経営課題としては、内部要因では「受注・販売量不足」と回答している企業が最も多く 46.5%、次いで「販売・営業力不足」38.9%、「人材確保・育成」28.1%と続いている。外部要因としては「同業他社との競合激化」が最も多く 55.1%、次いで「価格競争激化」が 45.4%、次いで「取引先からの値引圧力」が 28.1%、「原材料高騰」が 19.5%となっている。

7) DI 値前回調査との比較

※－（マイナス）は悪化、＋（プラス）は改善

	業界 DI		自社 DI		売上 DI		仕入 DI		販売 DI		採算 DI	
	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行
全業種	+16.2	+2.4	+9.7	-3.3	+10.8	+2.0	+6.5	+16.6	+3.4	+3.8	+14.7	+2.6
製造業	+20.7	+5.1	+6.4	+7.8	+17.7	+4.5	+21.4	+26.1	+7.0	+8.0	+21.3	+2.8
建設業	+23.3	+8.6	+21.3	+2.7	+29.6	+13.3	+4.9	+14.4	+1.9	-3.5	+24.8	+6.4
卸・小売業	+9.1	-6.0	+6.7	-8.2	-5.0	-6.6	-3.8	+19.0	-14.0	-5.5	-5.2	-2.2
サービス業・その他	+6.9	+0.1	+3.6	-24.8	-1.2	-6.3	-0.7	-0.6	0	+21.1	+20.3	+1.3

【業界別動向】

業種		キーワード		業界 (現在)	自社 (現在)	売上動向 (現在)
製造	+	<ul style="list-style-type: none"> ・年末、年始の需要に期待 ・設備増設等で受注増加(機械) ・他県からの受注増加 ・節電商品の需要あり(繊維) ・中国向けが好調 	前回 H23. 9			
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・内需不振、円高 ・受注の単価安 ・利益率の低下 ・少ロット多く先が見通せず(繊維) ・設備投資が落ち着いた気配(機械) 	今回 H23. 12			
建設	+	<ul style="list-style-type: none"> ・9月からの受注が増加 ・改修、補修工事が好調 ・7月に入り仕事増加 	前回 H23. 9			
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季前の発注控えあり ・原材料の高騰 ・公共事業減少、価格競争 ・元請の安値受注による安値発注 ・今後雪で作業が停滞する恐れあり 	今回 H23. 12			
卸・小売	+	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始の売上増加に期待(小売) 	前回 H23. 9			
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料品の低価格化、円高、高止り(卸) ・ユーロ圏諸国の信用不安(卸) ・天候不順による売上不調(小売) ・円高と地金価格高(小売) ・タイ洪水の影響に懸念(卸) 	今回 H23. 12			
サービス・その他	+	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始特別キャンペーンの実施による売上増加(飲食サービス) ・建設工事関連業務がピークのため好調(警備) 	前回 H23. 9			
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・単価が下げ止まり、売上減少 ・冬場は利用客が減少 ・仕入価格が上昇も単価に反映できず ・物件が動かず(不動産) 	今回 H23. 12			

DI値	天気	DI値	天気	DI値	天気
20.1 以上		5.0~▲5.0		▲20.1~▲40.0	
5.1~20.0		▲5.1~▲20.0		▲40.1 以下	

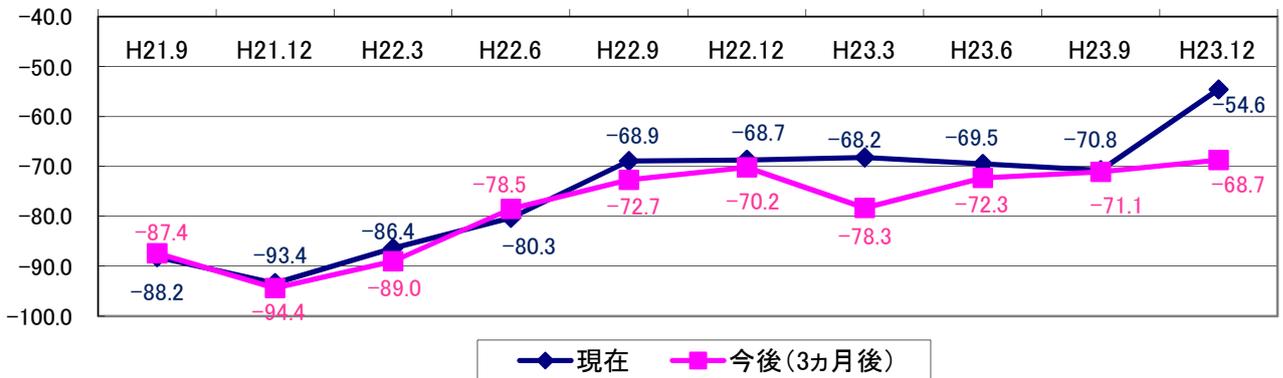
【業界の景況】

足踏みから一転、改善傾向に 特に「製造業」「建設業」で顕著
 但し、今後は悪化を予想

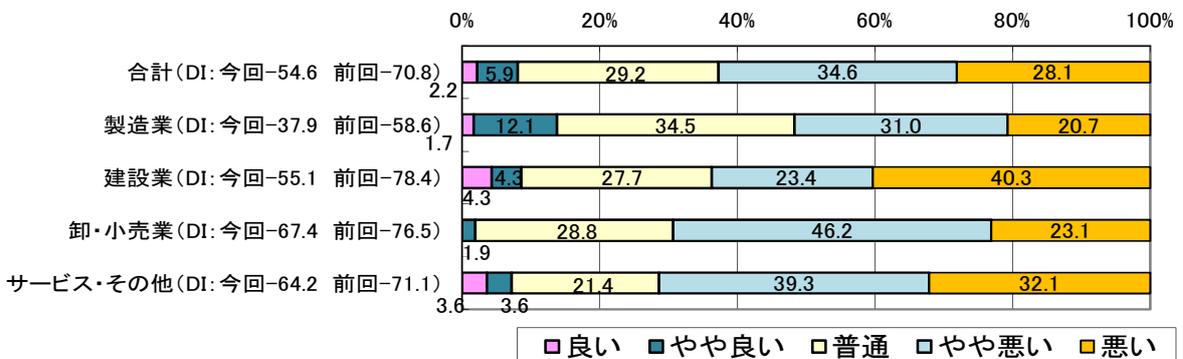
業界全体の景況DI値は▲54.6と前回調査（H23年9月）と比べ、16.2ポイントの改善となった。業種別にみると、「製造業」、「建設業」で改善幅が大きくなっている。「建設業」においては降雪前の補修・改修工事や、外での現場工事の納期が迫るなど季節要因によって「悪化」が減少し、大きな改善となったと考えられる。また、「製造業」は県内業者からの受注は依然増加していないものの、東北で生産できない機械の発注やタイの洪水被害により、国内に仕事がまわってきているという声も一部で聞かれた。

今後3ヶ月の先行DI値は▲68.7となり、「現在」との差は▲14.1と前回調査の「現在」と「今後（3ヶ月後）」の格差▲0.3よりも大きく拡大しており先行きへの警戒感は強まっている。

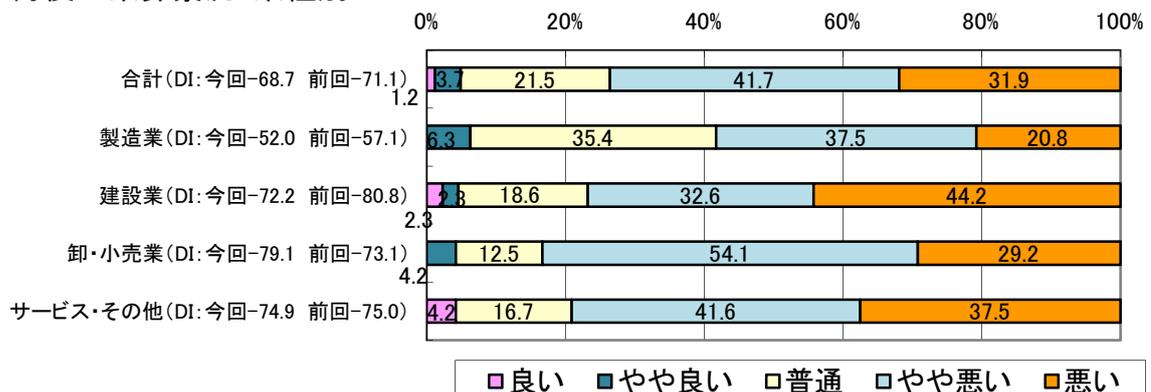
業界景況DI値の推移



現在の業界景況：業種別



3ヵ月後の業界景況：業種別

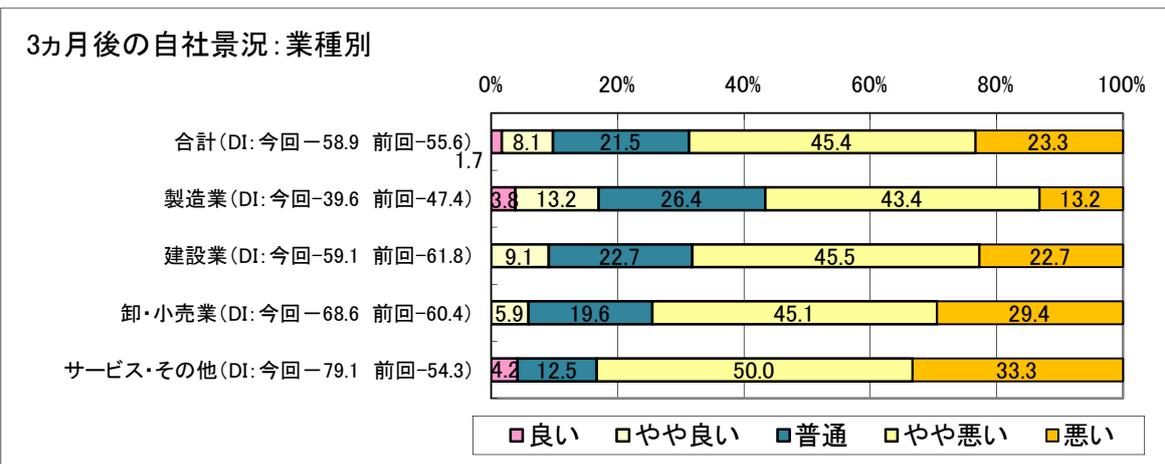
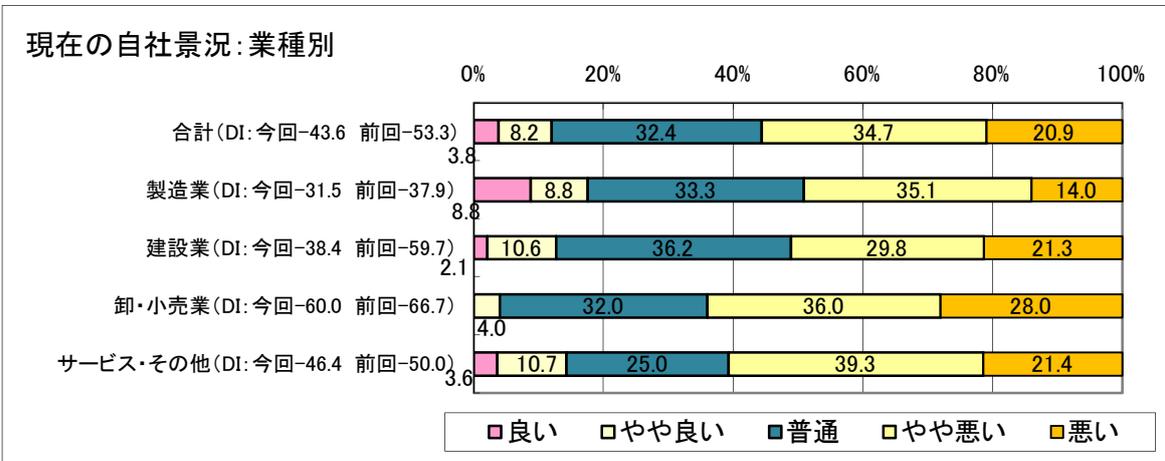
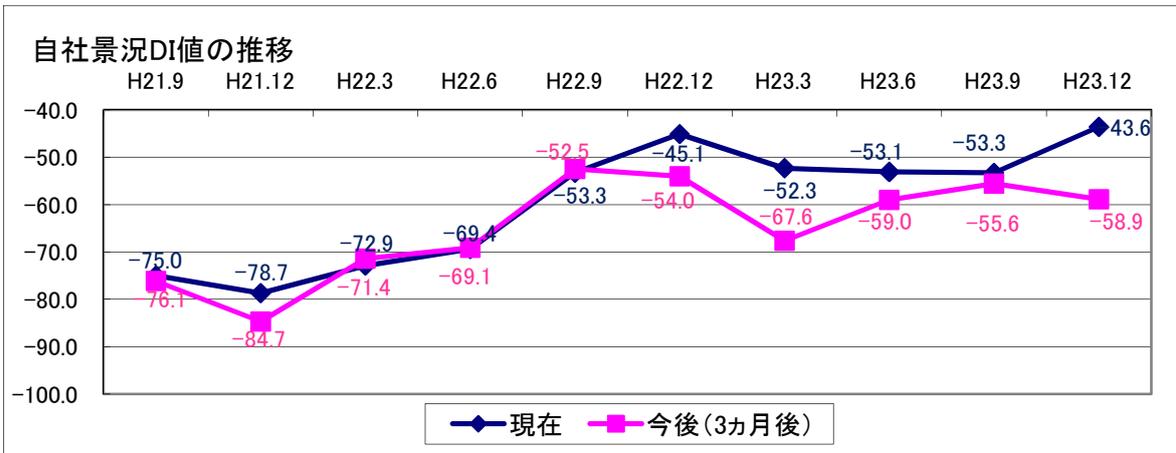


【自社の景況】

**全業種で改善、特に「建設業」で改善幅大きく
 今後は悪化を予想、「サービス業・その他」で顕著**

自社の景況感をみると、現在のDI値は▲43.6となり、前回調査（H23年9月）に比べ9.7ポイント改善となった。業種別にみると、「建設業」で改善幅が大きくなっており、冬場で工事が滞る前の駆け込み需要で一時的に受注が増加しているという声が聞かれた。

今後3ヶ月の先行DI値は▲58.9となり、「現在」との差は▲15.3と前回調査の「現在」と「今後（3ヶ月後）」の格差は▲2.3と、業界全体の景況感と同様に大きく拡大している。また、業種別では、「サービス業・その他」で他業種より大きな悪化を予想している。

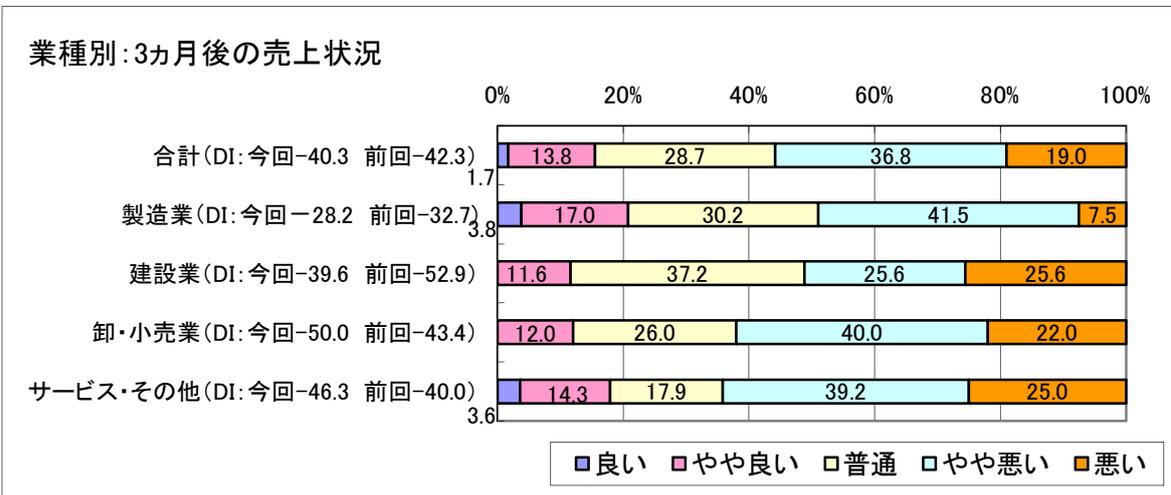
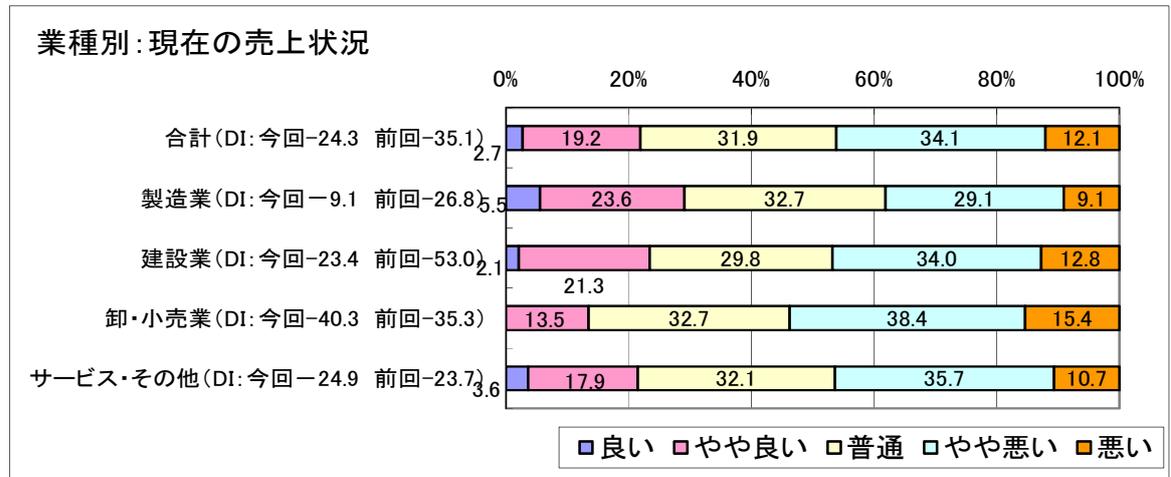
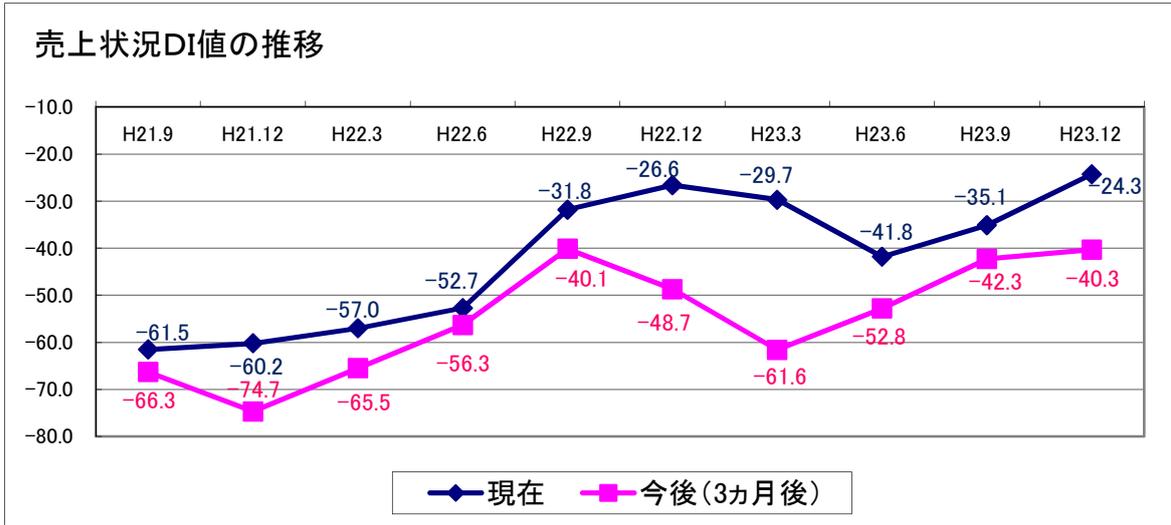


【売上（受注高）】

改善傾向続く 特に「建設業」、「製造業」で大幅な改善

売上（受注高）については、現在のDI値は▲24.3ポイントと前回調査より10.8ポイント改善した。業種別にみると、「建設業」29.6、「製造業」17.7のポイントアップと大幅な改善となっている一方で、「卸・小売業」、「サービス業・その他」では若干ながらマイナス幅は拡大している。

また、「今後（3ヶ月）」の先行DI値は▲40.3となり、「現在」のDI値との差は▲16.0と拡大した。この差は6ヶ月期の調査では▲11.0、前回9ヶ月期では▲7.2と縮小傾向にあったが再度の拡大となった。特に「卸・小売業」、「サービス業・その他」では厳しい見方をしている。



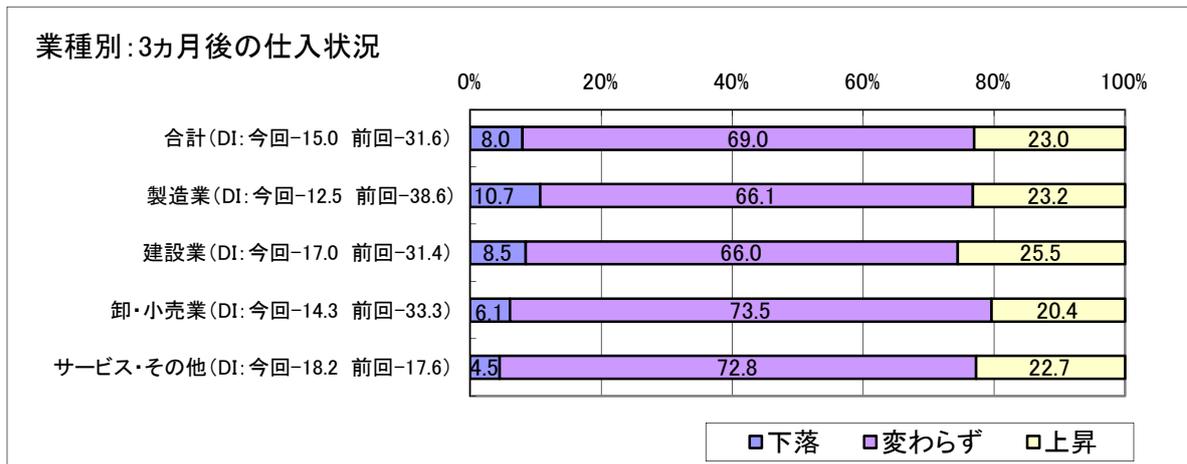
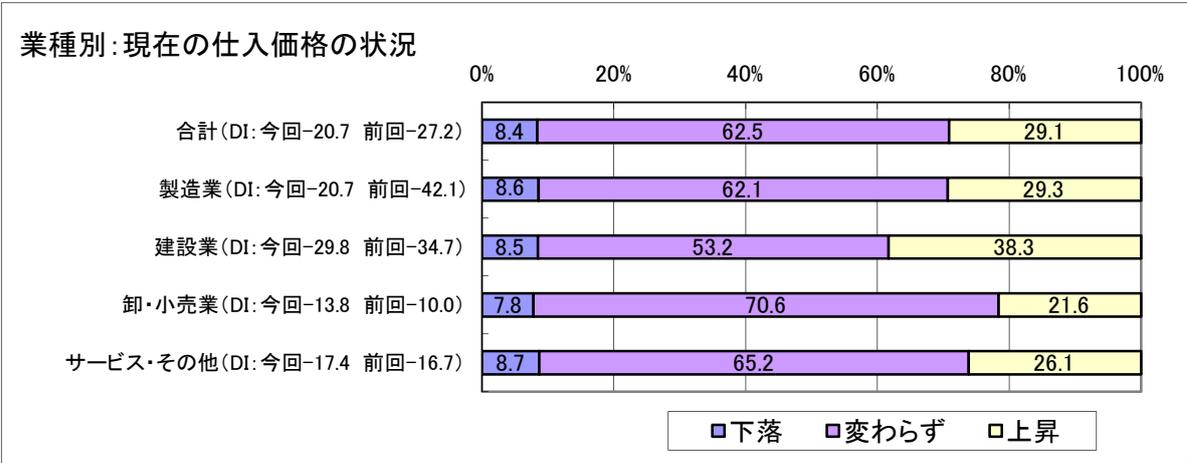
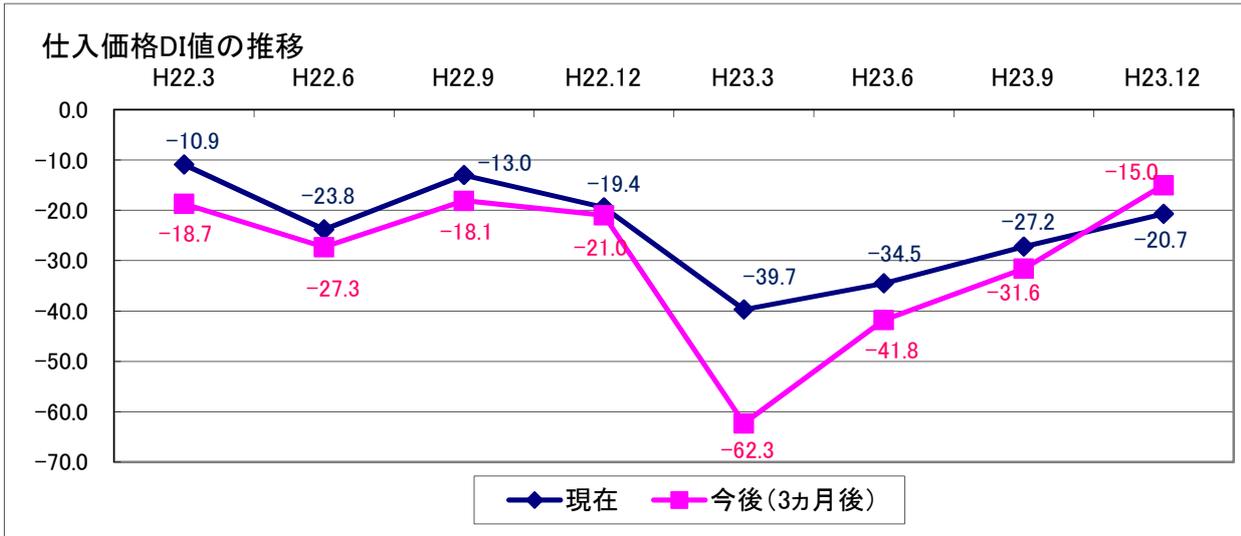
【仕入価格】

「現在」「先行き」ともに3期連続で改善傾向も「変わらず」が6割

仕入価格は「現在」で▲20.7ポイントとなり、依然低水準ではあるが、H23年3月期より3期連続改善となった。但し、依然「下落」より「上昇」の割合が高く、「変わらず」が6割を占めている。

「今後（3ヶ月後）」の先行DI値は▲15.0と「現在」を5.7ポイント上回っており、「現在」と「今後」の差は、前回調査の▲4.4から△5.7と大きく改善し、先行きの仕入価格低下に期待を寄せている。

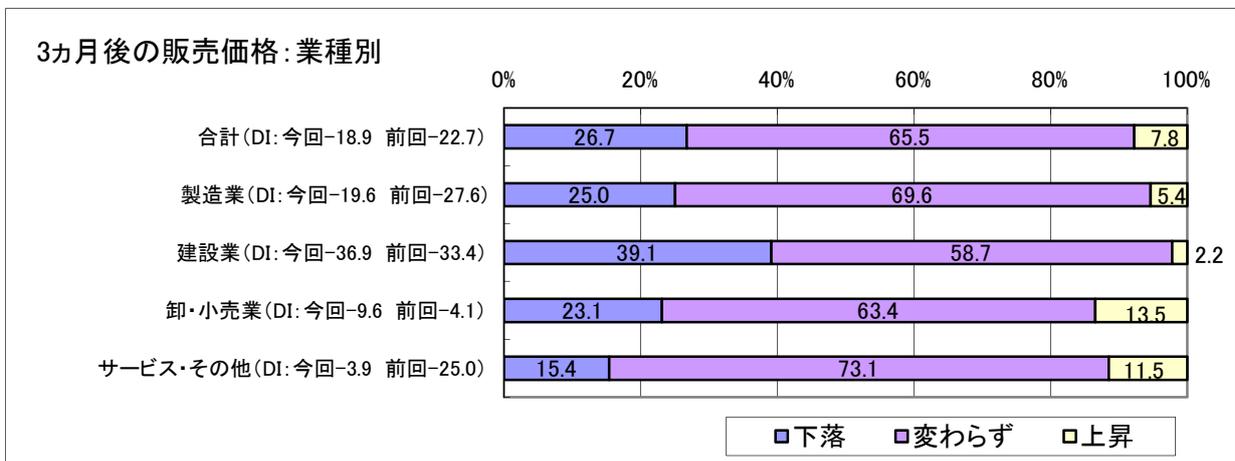
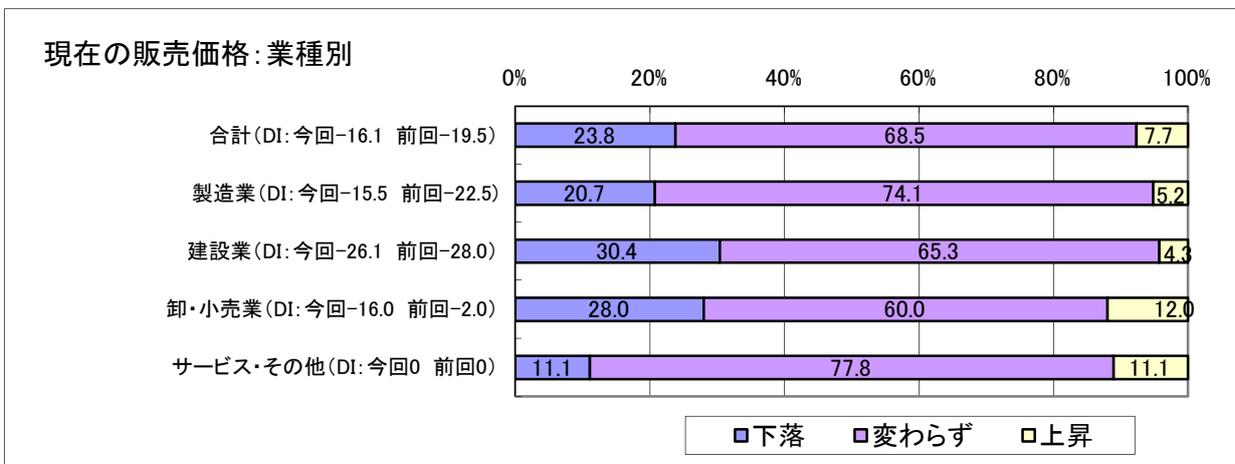
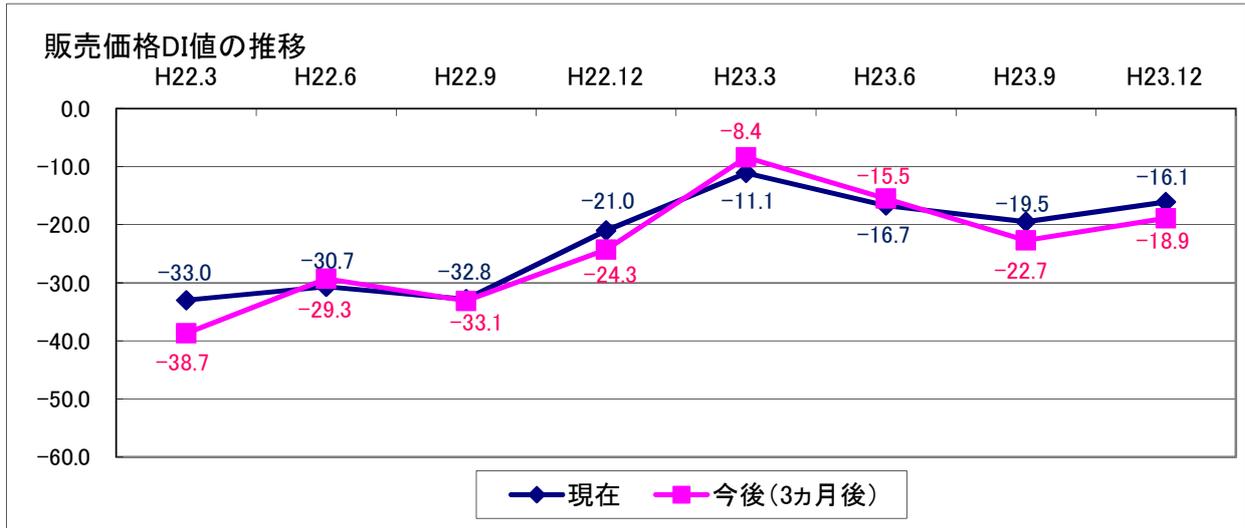
業種別にみると、「建設業」は改善しているものの他業種に比べると仕入価格の「上昇」の割合が高く、仕入れについては厳しい状況となっている。



【販売価格（単価）】

悪化傾向からやや改善に

「現在」のDI値は▲16.1と前回と比べ3.4ポイントアップし、また、「今後（3ヶ月後）」の先行DI値は▲18.9と、「現在」と「今後」の格差は▲2.8→▲3.2とほぼ横ばいとなった。
業種別でみると、「建設業」は「現在」、「今後」とも全体と比べ低い水準（▲28.0→▲26.1）であり、価格競争による受注の単価安が要因との声が多く聞かれた。また、「卸・小売業」の「現在」のDI値は▲2.0→▲16.0と大きく下落した。

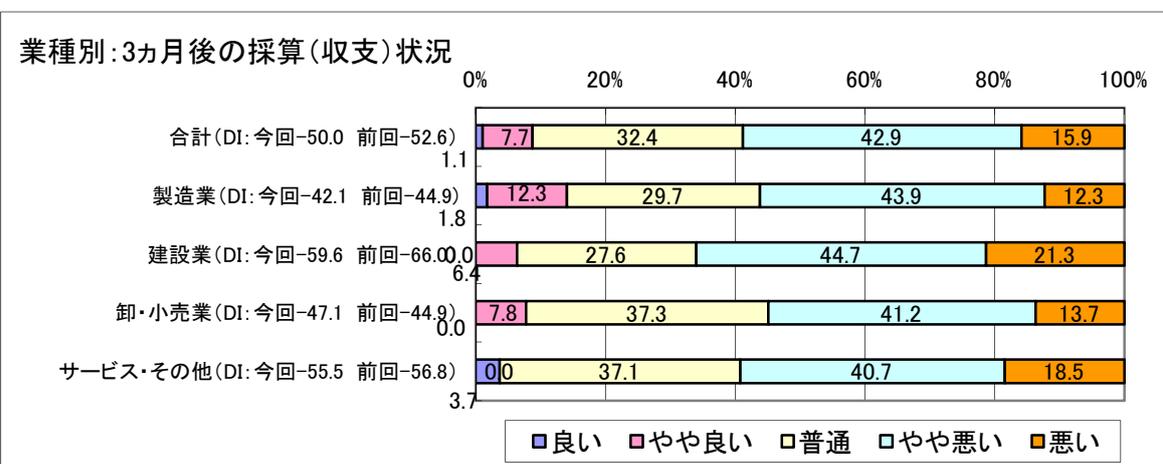
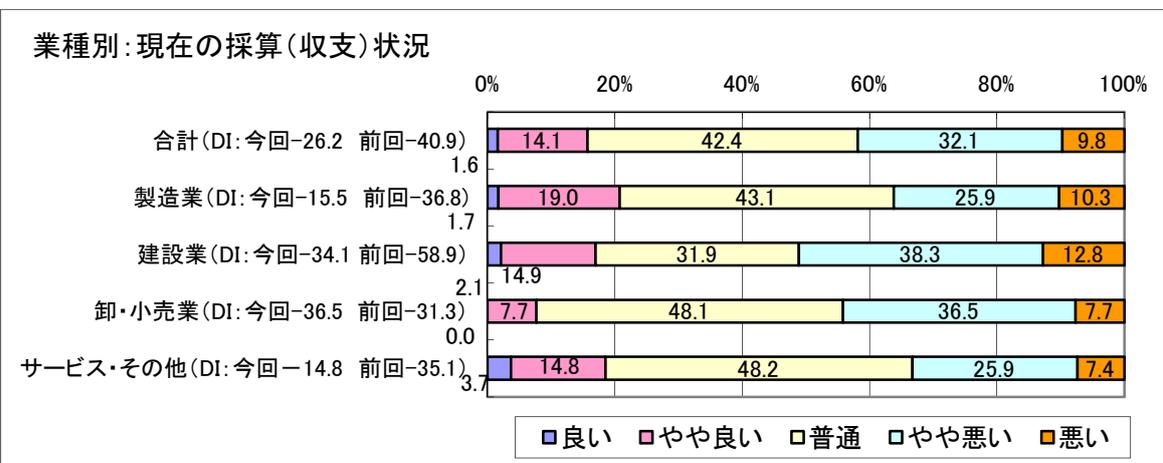
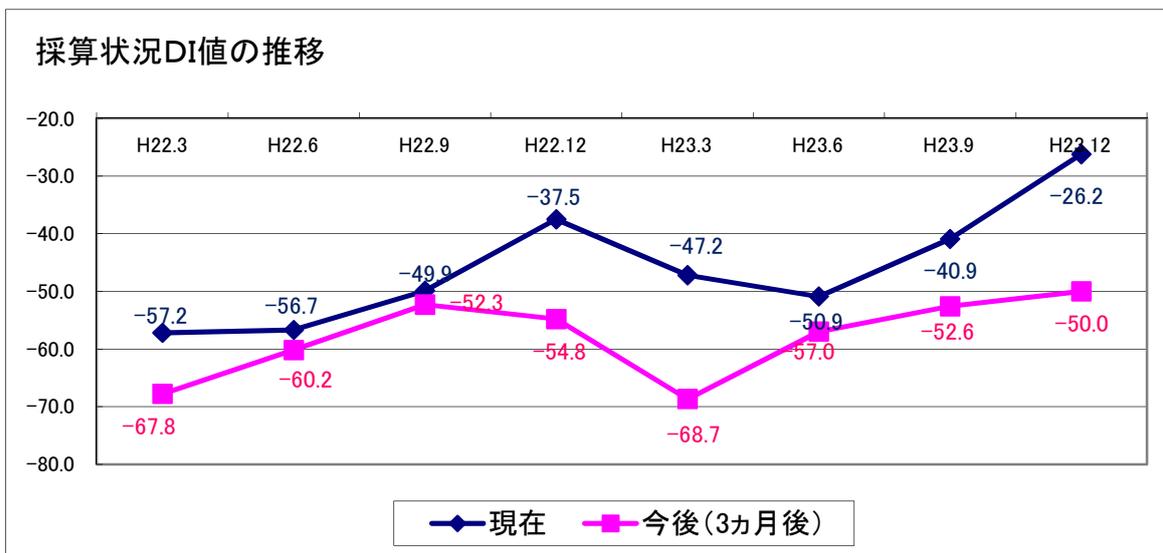


【採算（収支）状況】

売上の改善により採算（収支）改善も、先行きは慎重な見方

現在DI値は▲26.2と前回に比べ14.7ポイントアップした。業種別にみると、現在、今後3ヶ月の先行DI値ともに「卸・小売業」以外の業種は改善している。

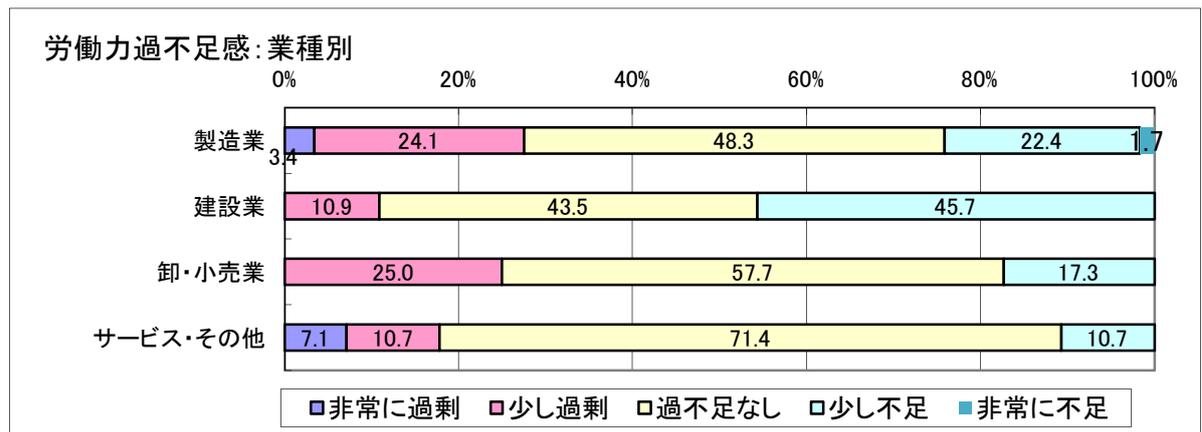
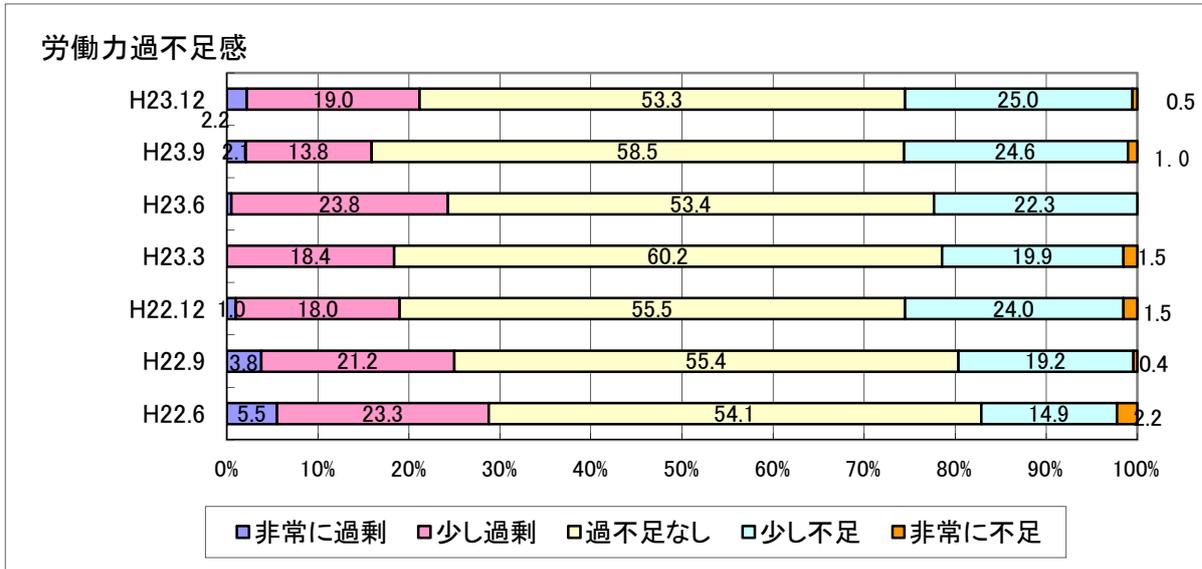
今後3ヶ月の先行DI値は▲50.0となり、「現在」と「3ヶ月後」の差は▲23.8と前回調査の▲11.7よりも大きく拡大しており、先行きへの不安はさらに高まっている。



【労働力の過不足感】

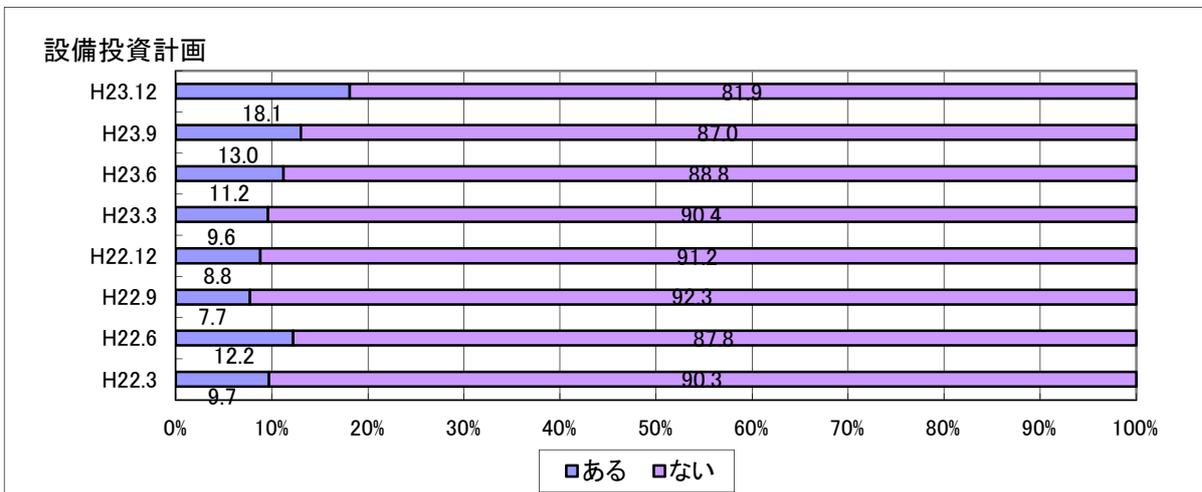
「過剰」（「非常に過剰」「少し過剰」と回答する企業は 21.2%と前回調査より 5.3%増加、「不足」（「少し不足、非常に不足」と回答する企業は 25.5%と前回より 0.1%減少にとどまり横ばい。「過不足なし」が 53.3%と前回より 5.2%減少した。

業種別にみると、降雪期前の駆け込み需要が見られる「建設業」でやや不足感がみられる。



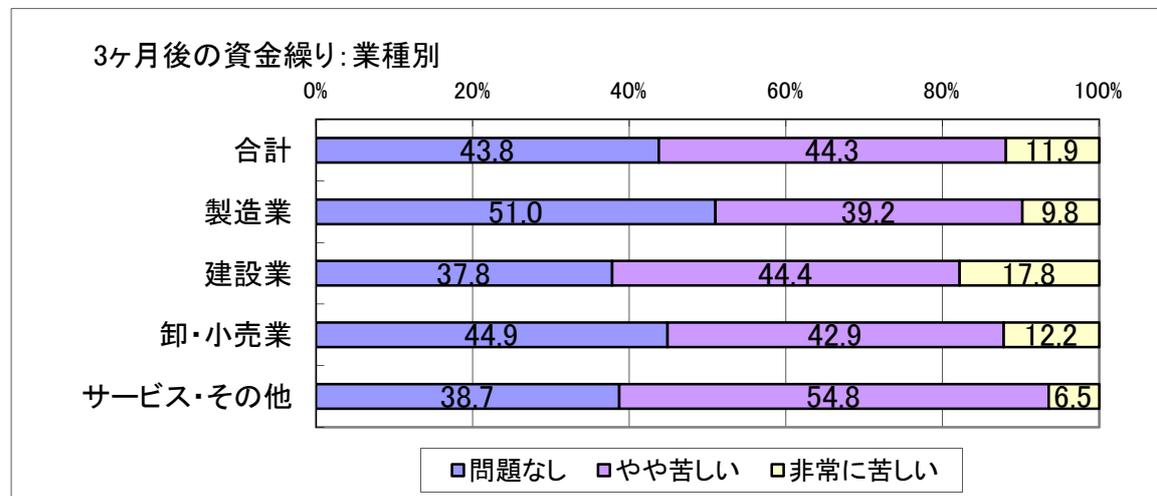
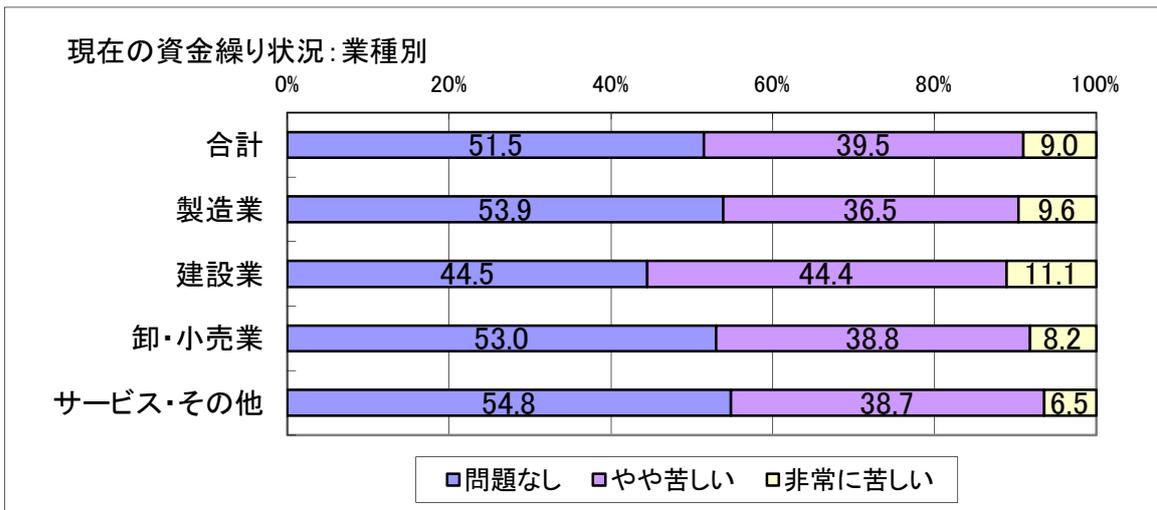
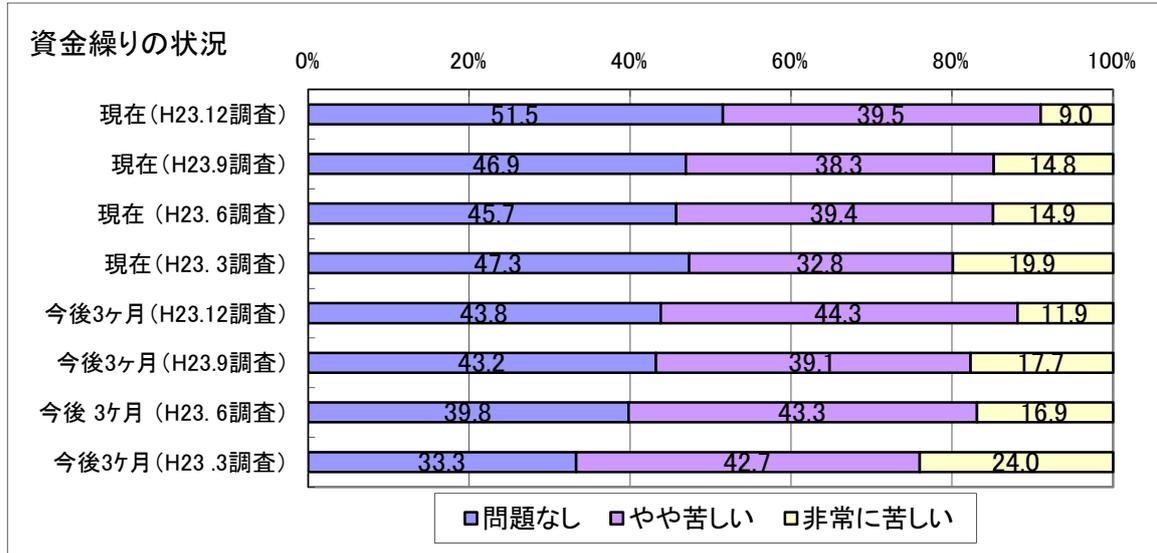
【設備投資計画】

今後 3ヶ月以内の設備投資計画が「ある」と回答した事業所は 18.1%と前回調査（H23年9月期）より 5.1%増加したが、全体的に動きは弱含みである。設備の予定があると回答した企業は、業種別でみると「サービス業・その他」、「製造業」の順で他業種に比べて割合が高くなった。どちらも「設備更新」が高い割合を占めた。



【資金繰り】

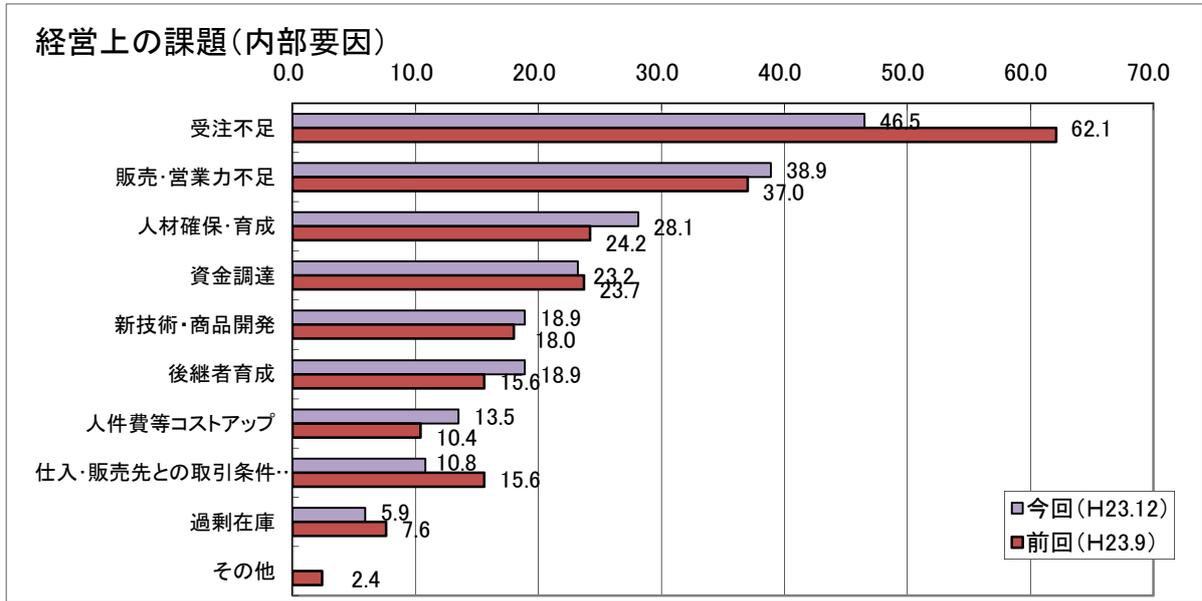
現在の資金繰り状況について、48.5%が「苦しい」（「やや苦しい」「非常に苦しい」と回答している。また今後3ヶ月後の予想では56.2%が「苦しい」と予想しており、依然として中小企業の資金繰りは厳しい状況である。特に建設業で「現在」、「先行き」とともに資金繰りが苦しいと回答。



【経営上の課題】（複数回答）

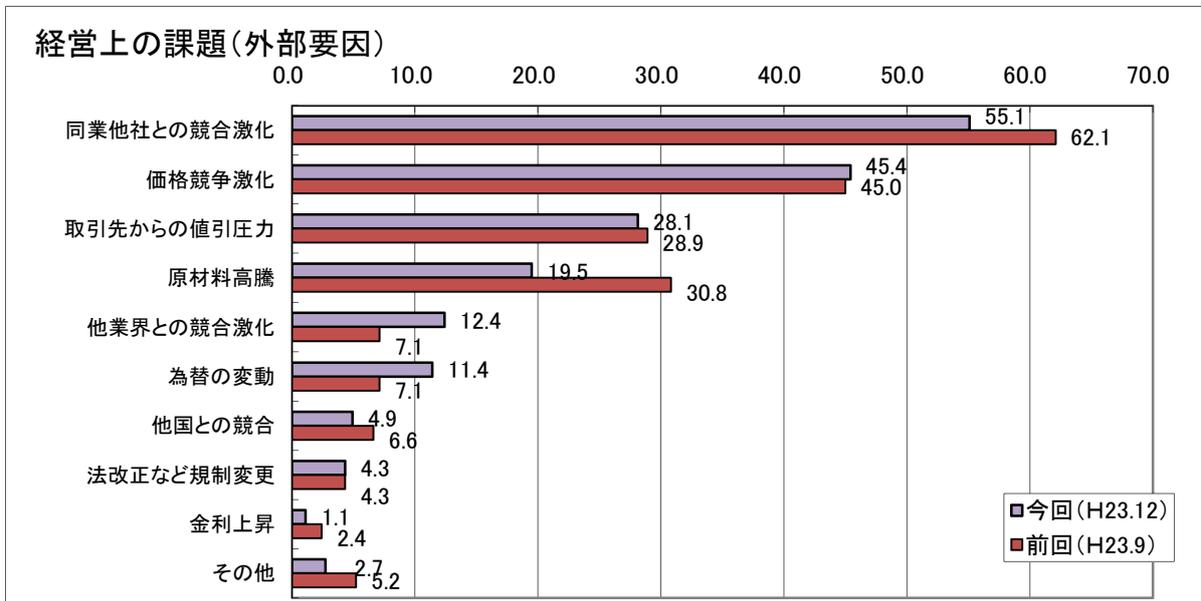
内部要因では「受注不足」と回答している企業が最も多く46.5%、次いで「販売・営業力不足」38.9%、「人材確保・育成」28.1%と続いている。

特に、「受注不足」は、前回調査（平成23年9月）より15.6%減少しており、「製造業」、「建設業」の受注増加が改善の要因と考えられる。



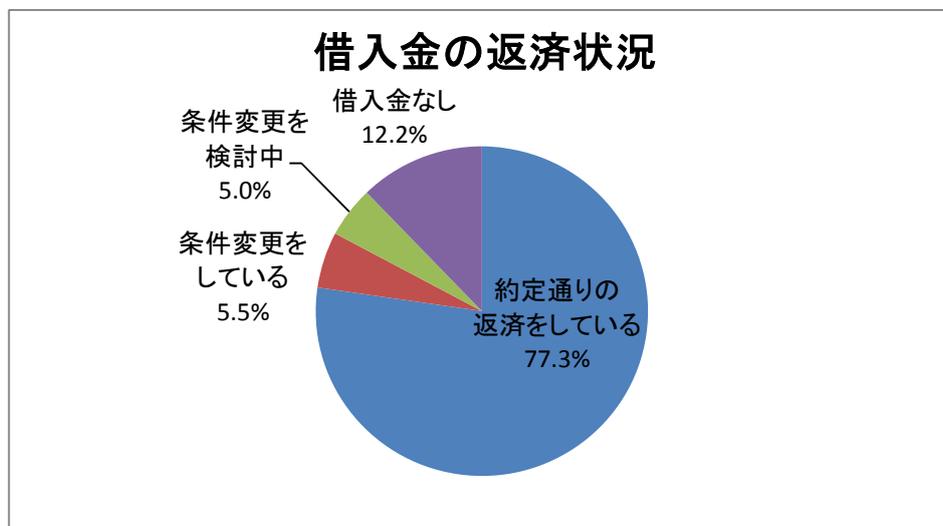
外部要因としては「同業他社との競合激化」が最も多く55.1%、次いで「価格競争激化」が45.4%、「取引先からの値引圧力」が28.1%、「原材料高騰」が19.5%となっている。

「原材料高騰」は、前回調査（平成23年9月）より11.3%減少しており、前項調査（P7）の仕入価格が改善傾向であることから、現状では落ち着きを見せていると思われる。



【借入金の返済状況について】 (1つのみ)

借入金の返済状況について質問したところ、「約定通りの返済をしている」と回答した事業所は77.3%を占めた。一方で、借入について「条件変更をしている」が5.5%、「条件変更を検討中」が5.0%と返済条件の緩和を実施、検討している事業所は全体の1割を占めた。



【資金繰り改善に向けて期待する支援策】 (あてはまるもの全て)

資金繰り改善に向けて期待する支援策は、「貸付金利の引き下げ」が51.4%と最も多く、次いで「保証料率の引き下げ」が34.1%となっており、できるだけ低コストでの資金調達を望む経営者が多いことがうかがえる。また、「貸付期間の延長」23.2%や「借換制度の拡充」14.6%も比較的多く、これらは資金繰りの改善のため月々の返済負担を軽減したいとの声と考えられる。

前項目の返済状況別に期待する支援策をみると、「約定通りの返済している」事業所では「貸付金利の引き下げ」、「保証料率の引き下げ」など経費削減につながる支援を希望しており、「条件変更検討中」、「条件変更をしている」と回答した事業所は、「貸付期間の延長」を期待する割合が増え、経費負担はもちろん、月々の返済負担の軽減策に期待している。

